

第5回 記者懇談会実施要領

- 1 日時 平成8年10月22日(火) 15時00分～16時30分
- 2 場所 関西大学 千里山キャンパス 新関西大学会館北棟2階会議室
- 3 内容 (1) 若手研究者の研究テーマと成果の中間発表(15時～15時30分)
 - ◇ 社会学部 永井 良和 助教授
研究テーマ「都市の視線—尾行者の街角」
 - ◇ 工学部 宮田 隆志 専任講師
研究テーマ「エネルギー資源利用のための分離膜」(2) 学内情報(15時30分～15時45分)
(3) 情報交換(15時45分～16時00分)
(4) 新関西大学会館見学(16時00分～16時30分)
- 4 関西大学の出席者 石川 啓 学長
月岡 利男 広報委員長
鈴木 俊光 教学部長代理
林 英夫 教学部長代理
北村 博 企画室長
荒木 紀忠 広報課長
- 5 配付資料 (1) 懇談会実施要領
(2) 研究発表レジュメ
(3) 『関西大学通信』No.236・No.248
(4) 新関西大学会館建築概要

以上

「都市と視線－尾行者の街角」

社会学部助教授 永井 良和

概要

都市空間を、複数の視線が交錯する場ととらえる。そのうえで、1920年代に出現した「尾行者」たちの問題を考えたい。それは、探偵や刑事にかぎられない。新聞記者や社会学者、福祉担当者、そして個人。さまざまな人が他者の後ろ姿を追った。尾行者たちの足跡をみることで都市生活の変化をたどる。

プロフィール

1960年西宮市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程学修退学。京都大学助手、大阪教育大学教育学部講師・助教授を経て、現職。社交ダンスの文化史、ダンスホールにかかわる風俗統制の社会史をまとめた著作に『社交ダンスと日本人』（晶文社）と『にっぽんダンス物語』（リプロポート）。「有害コミック」問題を手がかりにメディアと表現規制の関連を探った『子どもというレトリック』（共編著・青弓社）。現在は、探偵と尾行の社会史を調査中。南海ホークスと大阪球場の本も準備しています。



ながい よしかず
永井 良和

助教授

1960年西宮市のお生まれ。育ちも和歌山、京都だそうだから、まちがいなく「関西人」と言ってよい。京都大学文学部、同大学院（社会学専攻）を経て、88年に京大文学部助手、90年からは大阪教育大学専任講師・助教授。本学へは93年に着任。

学部・大学院時代には、シカゴ派の都市理論やゴッフマンの相互作用論などを通して、自らの都市社会学研究の理論的基礎固めをされ、数編の論文を発表。その後は一転（?）、〈公共空間の秩序化過程〉という視点から、都市空間に分泌される大衆文化・風俗現象の諸相に分け入り、精力的なフィールドワークを敢行、31歳の若さで労作『社交ダンスと日本人』（晶文社）を書き上げられる。かつて南海ホークスと大阪球場をこよなく愛した野球小僧が、いまはカラオケ文化や「18歳未満立入り禁止」ゾーン（の研究）に熱中する行動派社会学者。この半端でない「関西人」パワーに大きな期待が寄せられている。

エネルギー資源利用のための分離膜

関西大学工学部 宮田隆志

バイオマス資源から発酵法により生産されるアルコールは、石油、石炭および天然ガスなどの化石燃料に代わる新しいエネルギー資源として注目されている。しかし、現段階では生産したアルコールを蒸留などにより分離濃縮する際に多くのエネルギーを必要とするため、省エネルギー的な膜分離法の確立が待たれている。そこで、われわれの研究室では、膜分離法によるアルコール分離の実現化をめざし、アルコール/水混合液の分離膜を様々な方法で開発してきた。それらは二つに大別でき、通常の蒸留では分離し難い高濃度アルコール水溶液から脱水によって100%アルコールを得るための水選択透過膜と低濃度のアルコール水溶液から優先的にアルコールを透過させるアルコール選択透過膜である。これらの分離膜を天然高分子や合成高分子から調製し、膜構造と膜特性との関係を詳細に検討することによって優れた分離膜を開発するための基礎的知見を得てきた。さらに、それを基にして膜設計の概念を確立しつつ、実際に高選択透過性の分離膜を開発してきた。

- 1) 水選択透過膜: 96%エタノール水溶液から水のみを透過させることができる分離膜を、天然高分子であるキトサンあるいはその誘導体から得ることができた。
- 2) アルコール選択透過膜: 様々なシリコン系の分離膜を合成し、10%エタノール水溶液を約70%まで濃縮できる高アルコール選択透過膜を調製した。

さらに、現有するエネルギー資源利用のための分離膜についても同時に研究を進めている。例えば、石油精製に対して省エネルギー、環境保全などの利点を有する膜分離技術を利用するため、様々な有機液体混合液の分離膜も同様に膜設計の立場から研究している。

当日は、エタノール水溶液分離膜を中心にして、膜設計の概念を交えて膜構造と選択透過性との関係について発表する予定である。



みやた たかし
宮田 隆志

専任講師

1989年神戸大学大学院博士課程前期課程修了、ひきつづき同後期課程に進学したが、91年中退し、本学の助手に就任。博士(工学)。

専門は高分子化学、特に、機能性高分子膜や刺激応答性ゲルの構造と機能に関する研究に従事。その成果は、各種学会で数多く発表されている。現在は、浦上教授の下で、主に高分子膜による有機液体混合物の透過分離について精力的に研究を進めておられる。その中でも、エタノール水溶液の分離濃縮は、環境問題や省エネルギーの観点から非常に注目されている。

趣味は読書とスポーツ一般。中でも学生のころから始めたテニスは三度の飯より好きとのこと。最近では、研究が忙しくテニスをする時間が少ないことが悩みの種とか。

明朗なスポーツ青年で、教育・研究に活躍が大いに期待されている。